

令和4年第3回北海道議会定例会〔予算特別委員会・建設部所管〕開催状況

開催年月日 令和4年9月30日(金)
 質問者 日本共産党 真下 紀子 委員
 担当部課 建設部土木局河川砂防課
 建設部建設政策局維持管理防災課
 建設部まちづくり局都市環境課

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>二 災害対策について (一) 函館市湯の川の越水災害について 1 改修工事中の被災について 8月の度重なる大雨によって、工事中だった道管理河川の函館市・湯の川が氾濫しました。私、現地に伺いました。工事との関連を問う住民の声もあった訳ですけども、多雨期の工事として、どのような計画で工事を行っていたのか。工事と雨季対策、氾濫状況、対応等、全体像とともに、出水後の対応について、併せて伺います。</p> <p>2 水位計等情報管理と発信について 大変大きな被害に驚いたわけですけど、その際、氾濫場所の危機管理型水位計が作動せずに、住民に水位情報が伝わらない状態となって、警戒への影響、避難の遅れが指摘をされておりました。また、レンズには蜘蛛の巣が張っていて、管理にも住民から苦言が呈されたところなんですけども、事実関係について確認をします。また、道管理の水位計の設置状況と、今後の管理の在り方についても併せて伺います。</p> <p>【答弁後】 せっかくの機器が使えないということになったら、被害が大きくなる可能性もありますので、十分な管理をお願いしたいと思います。</p> <p>(二) 文教通の亀裂・浮上について 1 原因究明等について 函館市榎本町では、大雨によって、8月8日夜に、市道と道道の重複区間であり、幹線道路・通称「文教通」と呼ばれている道路の両側に約150メートルに及ぶ亀裂、歩道の浮上による段差が生じていました。通行止めも続いていると聞いておりますけれども、道はこの亀裂の調査を進めていると承知しております。結果は得られたのか。原因等、現時点での見解を伺います。</p> <p>2 同様構造物への今後の対策について 発泡スチロールの盛り土材ということですが、道内には他にも同様の構造の街路や道路があると聞いているが、どのような箇所で施工されているのか。原因を究明して、今後同様の工事手法が適切なかどうか、既存の構造物に対策の有無を検討する必要があると考えますけどいかがか。</p>	<p>○河川砂防課長 松田 哲夫 河川工事などについてであります。道では、出水期に河川工事を行う際、一連区間の現況流下能力を確保して施工を行うこととしており、湯の川の工事におきましても、同様に流下能力を確保しながら進めていたところでございます。 本年8月8日には、函館市内で観測記録を更新する激しい雨が降り、湯の川におきまして、整備が完了していない区間から水が溢れたほか、周辺の道路や住宅地におきましても、降った雨が排水しきれず浸水したところでございます。 道では、気象警報の発表に伴い非常配備体制をとりまして、湯の川を含む河川などのパトロールを実施し、現地状況の把握に努めたところであり、安全が確保できる水位まで低下した後、速やかに河道内の流木を除去したところでございます。</p> <p>○維持担当課長 黒田 健一 水位計等についてでございますが、湯の川に設置している危機管理型水位計と簡易カメラについて確認しましたところ、水位計につきましては、設定水位に達しても水位情報が表示されない状態となっており、その不具合は解消したところでございます。 また、カメラにつきましては、夜の画像が見えにくいなどの状況があり、直ちに改善を図ったところでございます。 道が設置した水位計は、令和4年3月末時点で、全道に930箇所あり、今後におきましても、観測機器の定期的な点検を行うとともに、現地パトロールの際に機器の状況を確認するなど、適切な維持管理に努めてまいります。</p> <p>○都市環境課長 若山 英樹 文教通の亀裂・浮上の原因等についてであります。道では、8月8日の大雨により被災した文教通において、道路に発生した亀裂・浮上の原因について調査を進めており、現時点での調査結果としては、大雨により周辺が浸水したことにより、軟弱地盤対策として道路下に設置された軽量の盛り土材が浮上し、被災したものと想定しているところでございます。</p> <p>○都市環境課長 若山 英樹 今後の対応についてであります。道では、軟弱な地盤上に道路の盛土を行う際には、対策工法の一つとして、土砂よりも軽い材料を使用し、道路の沈下や施工時の振動騒音抑制など、周辺宅地への影響の低減を図る目的として、発泡スチロールブロックを用いた軽量盛土工法を採用しているところでございます。 今後、文教通における調査結果を踏まえて、同様の工法を採用した他の道路について、必要な対応を検討してまいります。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>3 今後の復旧について そこそこの状況によって違うと思いますが、今回の被害は非常に大きなもので住民生活に大きな影響を及ぼしていますので原因究明をしてしっかりと対策をとって頂きたいと申し上げておきます。現地調査を踏まえ、渡島総合振興局、道建設部にも対応を求めてきたが、今後どのような対策が予定され、予算規模をどう見込み、復旧にどう取り組むのか伺います。</p> <p>【答弁後】 想定していなかった被害だと思うが文教通りは住民がいるんな意見を重ねて完成して、歓迎されている道路と聞いているので、そこの復旧を急いで頂きたいと思います。</p> <p>(三) ペーパン川の浸水被害対策等について 1 ペーパン川の浸水被害状況と調査・検証結果 6月末の大雨で、ペーパン川の浸水被害は3度目となる被害が起きました。私は現地に何度か赴いてですね、調査と対策を道に求めてきた訳ですけども、道の方は、現在河川改修であったことから、工事との因果関係を検証し、メカニズムの検証が必要であり、学識者の意見を聞いて結果を出すということでしたが、今般その結果が報告されております。被害状況と調査・検証結果はどうだったのか伺います。</p> <p>2 補償について 工事との因果関係が確認されたということなんですけども、私も現地です、一軒の被災農家を伺いました。ここは、品種改良中の大変期待されている水稻の試験栽培農家でありました。多くの高額な農機具が被災をしております。また、3度目となる床下浸水の影響が2軒とも大変心配されておまして、復旧に多額の費用が掛かることから、営農が継続できるのか、大変心配をされておりました。工事との因果関係が明らかになった訳ですから、補償については、この営農継続が可能となるように保証していくことが重要だと考えております。 今後の協議に向けた考え方も含め、どう対応するのか伺います。</p> <p>速やかな協議も必要なんですけどもね、農機具の倉庫の床下、住居の床下、その他に農機具も電気をつかってですね、測量機それから乾燥機、色識別機など、かなり高額な機器が全部水浸しになって使えなくなってるんですね。そうしたご事情もよく把握をして対応していただきたいと考えますが、いかがですか。</p> <p>【答弁後】 十分な協議を重ねて求めておきます。</p> <p>3 河道改修の必要性について ペーパン川は氾濫が繰り返されておまして、河道改修を求める住民の声がずっと昔からあった訳ですけど、その工事が急がれる中で今回被害にあった訳です。 この改修の遅れというのが最大の問題であって、今後の工事を急ぐ必要があると考えているんですが、どう取り組んでいくのか伺います。</p>	<p>〇都市環境課長 若山 英樹 今後の復旧についてであります。道では現在、原因についての調査を行っているところであり、今後、対策工法の検討等を進め、周辺住民の皆様のご不便が一日も早く解消されるよう、早期の復旧に努めてまいります。</p> <p>〇河川砂防課長 松田 哲夫 浸水の状況などについてであります。この度の浸水は、6月の日雨量の観測記録を更新する大雨が、短時間で強く降ったことにより、河川の水位が急激に上昇し、工事箇所を設置した土のうを越えて工事区域内に流れ込み、そこからさらに隣接する民地側に溢れ、家屋浸水や農地冠水などの被害が発生したところでございます。 また、道では、気象データなどの情報収集や地形の調査などを進め、それらを基に洪水流量の推定とメカニズムの分析を行ってきたところであり、分析の結果、工事を行っていただければ、今回の箇所ではなく下流の別の箇所でも浸水したと推定されますことから、工事の影響があったものと考えられます。</p> <p>〇河川砂防課長 松田 哲夫 被災者への対応についてであります。工事の施工と発生した損害との間に因果関係が認められますことから、道といたしましては、損害を補償する考えであり、速やかに被災された方と協議を進めてまいります。</p> <p>〇河川砂防課長 松田 哲夫 被災者への対応についてであります。道といたしましては、損害を補償する考えであり、被災された方に対して、丁寧に対応してまいります。</p> <p>〇河川砂防課長 松田 哲夫 今後の河川整備についてであります。道といたしましては、平成28年、30年と浸水被害が続いたペーパン川におきまして、災害復旧等の早期完成を図りますとともに、未整備区間の着手に向けた検討や、治水ダムの技術的な検討に必要な調査を進めてまいります。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>4 ペーパン川のダムによらない治水対策について そこですけれどね、建設部はペーパン川の場合、流域全体での治水対策が必要との認識をとって、ダムの新設を前提に今、調査を進めているということです。昨今の気候変動による豪雨被害というのは、もうダムで対応できるような規模ではなくなっていると考えます。地元からは、河床掘削や河道改修の加速が求められておまして、函館市では、遊水地が非常に効果を上げているとお聞きをいたしました。</p> <p>ダムに頼らない環境配慮型治水としてですね、ダム以外の治水についても検討して、進めていく必要があると考えますけど、最後に部長の見解を伺います。</p> <p>【答弁後】 ペーパン川は、河道の形状の特徴によって氾濫が続いているんですね。だからその所をまず改修すると。それから生コンなどが高騰している思ったよりも高くなると思うんです。ダムの場合。だからそういうことも勘案して自然に配慮した対策を優先するように求めておきます。</p>	<p>○建設部長 北谷 啓幸（河川砂防課） ペーパン川の治水対策についてであります。ペーパン川におきましては、堤防や河道拡幅などの河道整備で行う場合には、下流から順次整備を進めていく必要があります。完了までに長い期間と多額の費用を要する一方、治水ダムなどで行う場合には、河道整備に比べまして事業期間やコスト面などにおいて優位性があると評価しているところであります。</p> <p>このため道といたしましては、洪水を一時的に貯める施設の整備が必要と考えておまして、引き続き、治水ダムの技術的な検討に必要な調査を進めるなどペーパン川流域の洪水被害の防止・軽減に取り組んでまいります。</p>